



発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 第五期科学技術基本計画と日本品質管理学会
- 2-私の提言 ダイバーシティ・インクルージョン
- 2-ルポルタージュ 第383回関西事業所見学会ルポ
- 3-9・10月の入会者紹介/新規研究会募集/JSQC規格頒布のお知らせ/行事案内
- 4-行事案内/投稿要項の改定について

第五期科学技術基本計画と日本品質管理学会

副会長/地圏環境テクノロジー 末岡 徹

1. はじめに

2015年12月18日、総合科学技術・イノベーション会議（議長：安部晋三首相）は「科学技術基本計画」に対する答申を行い、1月22日閣議決定しました。本計画の中では、まず日本の目指すべき姿として、

- ①持続的な成長と地域社会の自律的発展
 - ②国及び国民の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活の実現
 - ③地球規模課題への対応と世界発展への貢献
 - ④知の資産の持続的創出
- と定めています。そしてこれらの項目を具現化・実現化するためには、以下で述べる領域への取り組みが最も重要であり、今後5年間で約26兆円をかけ積極的に進めるとされています。ここでは、2016年度から始まる第五期科学技術基本計画について品質の観点および日本品質管理学会（以下JSQC）の立場から検討してみます。

2. 第五期科学技術基本計画の重点領域

基本計画では、ICTの進化等により「大変革時代」が現在到来しているという基本認識の下、世界に先がけて「超スマート社会の実現」（Society 5.0）を目指すとされています。すなわち未来の産業創造・社会変革に向けた新たな価値創出の取り組みとして、人類がたどってきた4つ

の社会（狩猟、農耕、工業、情報）の先に年齢、性別、地域、言語等の違いを越えて多種・多様な質の高いサービスが受けられる社会の実現を図るとのことです。具体的には、先行して11の分野の科学技術イノベーションを行い、社会変革を図り未来社会を切り拓くとのこと。中でも、新たな物づくりシステム、おもてなしシステム、スマートフードチェーンシステム、スマート生産システム等の分野は、まさに品質という観点から扱うべき分野と考えられ、今回の基本計画の中にはJSQCが関与すべき活動領域が、実に数多く含まれています。

3. 第五期科学技術基本計画と品質

基本計画では、超スマート社会の実現を目指すには、まず一連の取り組みである「Society 5.0」の深化が必要とされています。奇しくも2014年11月大久保尚武前会長が会長就任時に掲げられたキーワードである「シンカ」が重要語として使われているのです。今回、新木理事に基本計画案中のJSQCに関連するキーワードを検索していただき、その数を調べると、品質（3）、質（29）、サービス（53）、標準（26）、安全（42）、データ（50）となっていました。このキーワードの出現傾向は、従来の製造業だけでなく、今後は食料、農業、医療、サー

ビス産業など新規分野の質・品質も重視していこう、という椿広計会長以下JSQC理事会が推進している学会中長期計画の方向性とも一致しており、まさに学会にとってチャンス到来です。

4. 日本品質管理学会の最近の動き

現在、JSQCはさまざまな活動を行っていますが、その中で横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）と情報交換を行い、第五期科学技術基本計画の実現に向けてシナジーを高めていこうと考えています。またJSQCは、2018年までに日本科学技術連盟、日本規格協会と質・品質に関するアンブレラ中核組織（JAQ）を構成し、今後日本におけるQualityに関する総合的・俯瞰的活動の一角を担おうと考えています。さらにJSQCは、学会中期計画で高等教育研究機関における品質管理活動を支える研究者・専門家育成を謳っており、東京大学や滋賀大学などにこの分野の拠点を形成すべく努力しています。JSQCは会員の皆様と共に今回の第五期科学技術基本計画をチャンスと捉え、その活動をさらに活発化させていきます。会員の皆様の御協力・ご支援よろしくお願いたします。

内閣府・科学技術基本計画URL

<http://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html>

● 私の提言 ●

ダイバーシティ・インクルージョン

前田建設工業株式会社 新倉 健一



“Made in Japan”は「高品質」「安全・安心」などのステータスを得ている一方で、先人たちが長年に亘り築

き上げてきた土台を揺るがす品質事故も後を絶たない。その背景には技術の空洞化が進み、品質に重大な影響を与えかねない事象を見逃してしまう問題が潜んでいるように思えてならない。「多忙ゆえに目が行き届かない」「分業化が進み全体が見えない」「人不足で経験が足りない」といった嘆きをメディアなどで目にするたびに、打開策

を模索せずにはいられない。

目指すべきは、視野をより広く、技量をより深めて、社会が求める価値を具現化し錬成していく姿である。目前の仕事はクオリティを落とさず、より短時間で終わらせて、自己研鑽や社会との交流に注力する。そして新たに得た学びや情報を業務に活かすスパイラルこそ、「当たり前品質」の堅持と「魅力的品質」の創造に結実する王道であろう。

奇しくも現在、「ダイバーシティ」が日本の産業界に浸透しつつある。「女性活躍推進」や「ワークライフバランス」はその一部でしかなく、多様な個性の力を受容し、相互啓発・相互研鑽に

より組織力に導くことが本質であると個人的には受け止めている。その要諦が時間を有効に活用するための「タイムマネジメント」であり、改善のターゲットとする業務がなぜ必要かの分析を進めると、目的志向に磨きがかかり、使命感、さらには顧客視点のマインドに帰結すると確信している。

日本品質管理学会には、ダイバーシティ推進の土壌が育まれている。異なる分野から志を共にする人財が集い、「他流試合」に日々取り組んでいる。強みとすべきは、日本の品質管理の源泉である「職場第一線のビジネスパーソンが自ら学び、自ら改善する」DNAであろう。未来に向け期待すること、それは「他流試合の輪を抜け、交流の密度を深めること」に尽きる。将来に亘り「ジャパン・ブランド」が社会に信頼を与え続けるために、日本品質管理学会がその原動力として躍動し続ける存在になることを願ってやまない。

第383回関西
事業所見学会
ルポD-eggにおける産官学連携
による起業支援を通じた
新規産業創出と地域経済
発展への取り組み

第383回事業所見学会が11月27日に京田辺市のD-egg（同志社大学発インキュベーション施設）で行われた。ここは大学と連携して起業家を育成するインキュベーション施設で、(独)中小企業基盤整備機構が大学と地元自治体共同で運営している。インキュベーションとは卵の孵化を意味し、起業家の育成や新たな産業の創出を支援するという意味である。「D-egg」とは同志社の「D」と卵の「egg」から成り、機能を端的に表現した愛称である。施設の提供のみならず、起業にあたり資金調達、知的財産戦略など、多面的にサポートしている。この施設を「卒業」したOB企業も多い。現在では学生が起業した会社も入居しているそう。D-eggの概要説明の後、入居企業を代表しエイキット(株)とアイ'エムセップ(株)の紹介があった。

エイキットは糖化ストレスの測定をコア技術とし、

分析機器を駆使して食品や化粧品を評価している。測定技術の開発に同志社大学と連携しており、大学の技術を起業した例として紹介された。大学と連携し易いというD-eggのメリットを活かしている。

アイ'エムセップ (I'MSEP) は、元京都大学・同志社大学教授が熔融塩電気化学プロセス技術を活かしての起業である。企業名は技術の頭文字 (MSEP) の前に「Innovation By」の意味で「I」を付けている。車載電池材料の高性能化、レアメタルのリサイクルなど応用範囲の広い技術で、当日は緻密質炭素メッキを例に詳しく説明していただいた。売上は右肩上がりだが、産業利用が広がればとわくわくさせる内容であった。D-eggのサポートは販路拡大で大きいと説明されていた。

説明の後、各企業を見学させていただいた。両社とも大学発ベンチャーの例であった。大学の技術もそのままでは実用化は難しいであろう。ものづくりを基盤とした起業や新産業創出の面でのD-eggの寄与は大きく、今後の更なる発展が期待される。最後に、事業所見学会にご協力いただいたD-eggの皆様には厚くお礼を申し上げます。
榊 秀之 (千寿製薬(株))

2015年9月の 入会者紹介

2015年9月15日の理事会において、下記の通り正会員7名、準会員1名、職域会員1名の入会が承認されました。

.....
(正会員7名) ○村山 和繁(キーテック)

○青山 菜穂(オグラ宝石精機工業)

○高橋 星太(富山村田製作所) ○塩

谷 誠(積水ハウス) ○山口 新吾(パ

ナソニック) ○三井 正(東芝) ○中

山 幸雄(筑波大学)

.....
(準会員1名) ○高橋 利季(ものつく

り大学)

.....
(職域会員1名) ○塩川 博史(パナソ

ニック)

2015年10月の 入会者紹介

2015年10月28日の理事会において、下記の通り正会員12名、職域会員3名の入会が承認されました。

.....
(正会員12名) ○梅田 教生(日本冷凍

食品検査協会) ○酒井 香苗(トヨタ

紡織) ○八井 晶世(IRCAジャパン)

○久保 友志郎(ソーラーテック) ○

須藤 哲弥(日本アルコン) ○清水

悠貴(LIXIL) ○大川 智裕(望星築地

薬局) ○今井 徹(ALBERT) ○若林

稷(NECフィールドینگサポート

クルー) ○松井 正好(住友金属鉱山)

○甲斐 糾夫(ニコン) ○宮本 眞志(ト

ヨタ自動車)

.....
(職域会員3名) ○磯部 一樹(ニチバン)

○桑山 純一・中村 健二(豊田自動

織機)

.....
正 会 員 : 2040名

準 会 員 : 53名

職域会員 : 38名

賛助会員 : 153社198口

公共会員 : 17口

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2016年4月～2017年3月（1年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。
http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html

申込締切：2016年3月25日(金)必着

研究会の申請と運営：

○研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を5～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニュースでメンバーを公募する。

○研究目的と年間の研究活動計画を作成する。

○1研究会のメンバーは20人までとする。

○会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。

○時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。

○研究会運営費は一人1回当たり1,150円（内訳：通信費・資料代・食事代）。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

事務局からのお知らせ

JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

JSQC規格 Std 21-001「プロセス保証の指針」

1. **申込方法**：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、住所、送付方法、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申 込 先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. **資 料 代**：1冊（A4判45頁）会員1,760円（税込み）非会員2,200円（税込み）

送 料：(冊子小包) 1冊215円、(DM便) 1冊170円、他多数の場合、事務局までご連絡ください。申込みと同時に下記宛お振込みください。

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会

三菱東京UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。

行 事 案 内

●H27年度 PCAPS研究会・QMS-H 研究会 成果報告シンポジウム

テーマ：医療への質マネジメントアプローチ

日 時：2016年2月27日(土)13:00～17:00

「PCAPSの実装・臨床分析・社会システム構築」

2016年2月28日(日)9:30～17:00

「医療QMSと組織的改善」

会 場：早稲田大学西早稲田キャンパス
63号館2階03、04、05会議室

申込先：シンポジウム事務局

E-mail：qms-h-secretary@tqm.

mgmt.waseda.ac.jp

TEL 03-5286-3304

FAX 03-3232-9780

詳 細：<http://www.jsqc.org/ja/division/med/iryu.html>

●第97回クオリティトーク（本部）

テーマ：リスクの話

ゲスト：野口和彦氏（横浜国立大学）

日 時：2016年3月16日(水)18:30～20:50

会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル
5階研修室
定 員：30名
参加費：会員3,500円 非会員4,500円
準会員・一般学生2,500円
(含軽食・当日払い)
申込先：本部事務局
詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h280316

●第5回 科学技術教育フォーラム

テーマ：産官学共創のアクティブ・ラー
ニング
日 時：2016年3月21日(月)13:00~17:30
会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎
119講義室

定 員：80名
参加費：1,000円(資料代・当日払い)
プログラム：
基調講演
「学校教育の新展開と問題解決教育」
長尾篤志氏
(文部科学省初等中等教育局)

第1部「日本の品質管理の父 石川馨
先生の考えとアクティブ・
ラーニング」
鈴木和幸氏(TQE特別委員会委員長)
第2部「問題解決のためのアクティ
ブ・ラーニング教材」実践事
例並びに教材紹介
第3部 パネルディスカッション
司会：椿 広計氏
(JSQC会長・統計センター)

詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h280321

●第387回事業所見学会(本部)

テーマ：JAXA筑波宇宙センター 宇宙
開発の最前線
日 時：2016年4月21日(木)12:00~16:00
見学先：宇宙航空研究開発機構(JAXA)
筑波宇宙センター
定 員：35名
参加費：会 員4,500円 非会員6,000円
準会員3,500円一般学生4,000円
(貸切バス代1,500円含む)
※当日払い
申込締切：4月14日(木)
申込先：本部事務局
詳 細：http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h280421

●第157回シンポジウム(本部)

テーマ：ISO 9001:2015改正に伴う
第三者審査の質向上
—2015年版に対応する審査技術—
日 時：2016年4月23日(土)9:55~17:00
会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル 地下1階講堂
定 員：140名
参加費：会 員 5,400円(締切後 5,940円)
非会員10,800円(締切後11,880円)
準会員 2,700円 一般学生3,780円
※当日払いは別金額
申込締切：2016年4月15日(金)
プログラム：
特別講演

「ISO 9001:2015の特徴」(仮題)
中條武志氏(中央大学)
「ISO9001:2015年の審査の変化—
審査登録機関の方針と対応—」(仮題)
小野寺将人氏(日本科学技術連盟)

「ISO9001:2015年の審査を受けて」(仮題)
清川卓二氏
(清川メッキ工業)：第一回JABアワード表彰
「ISO9001:2015対応中小企業向け
QMSモデル」
及川忠雄氏(QMS部会WG6)
「審査員の力量」
福丸典芳氏(QMS部会WG2)
「ISO9001:2015での審査技法」
田附善幸氏(QMS部会WG7)
パネル討論
パネルリーダー：
平林良人氏(QMS部会副部会長)
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/
events/index.html#h280423

●第110回研究発表会(本部) 発表募集

日 時：2016年5月28日(土)29日(日)
会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル
(1)申込期限
発表申込締切：3月22日(火)
予稿原稿締切：4月22日(金)必着
参加申込締切：5月18日(水)
(2)研究発表・事例発表の申込方法
1月送付の発表申込要領をご覧ください。
(3)参加申込
本部事務局宛E-mailまたはFAXにて
お申し込みください。

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
〒166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
日本科学技術連盟東高円寺ビル内
本 部：FAX 03-5378-1507
E-mail:apply@jsqc.org

投稿要項の改定について

論文誌編集委員会委員長/東京理科大学 鈴木 知道

論文誌編集委員会では、「品質」誌の投稿論文の見直しを行いました。投稿区分の英語名称の変更と、投稿原稿表紙の見直しです。そして英文投稿要項を、日本語の投稿要項と内容が一致するように改定しました。

投稿区分の英語名称の変更の主目的は、カテゴリー名がなるべく論文の内容や格を表せるように、という点です。そのため、審査員が2名つく論文については、英語でも最後にpaper という単語で終わるように統一しました。なお、日本語での名称変更はありません。品質に関する新しい発見や提言などがありましたら、ぜひ品質誌でご発表ください。内容に合う投稿区分が

あると考えております。

投稿原稿の表紙の見直しでは、論文の分量の書き方を変更しました。本文だけでなく図表等にも換算行数を書いていただくことで、図表を含めた全体の分量の把握が正確に行えるようになっていくと期待しています。その他書き方が分かりにくいと指摘があった点について改善しました。

新しい投稿要項は学会のホームページからダウンロードできます。URLは<http://www.jsqc.org/ja/kankoubutsu/hinshitsu/toukou.html>です。会員の皆様からの論文投稿、お待ちしております！